



学校だより

# えのき

NO. 9 (37)

〈めざす児童像〉

笑顔で なかのよい子  
のびのび たくましい子  
気づき 考える子



令和2年11月27日

皆野町立皆野小学校

## 誰にでも よいところはある ~それに気づいていますか?~

お子さんの長所はどんなところでしょうか。

子供たち自身も、自分の長所（よいところ）や友達の長所について考えてみましょう。自分の長所がわからない人は、お家の人や先生、友達に訊いてみるとよいですよ。

### 明の長所 【小学校道徳 読み物資料より】

やす子たちの学級では、隣の席に座っている友達の特長をとらえて作文に書くことになった。

やす子は、隣の席にいる明のことを、改めていろいろ考えてみた。学級いちばんの暴れんぼうで通っているだけあって、やす子も、明にはずいぶん困らされたことがある。特に、隣同士で協力してやらなければならないことがある時など、明がふざけるのには手を焼いていた。「まじめにやってよ。」と、いくら頼んでも聞き入れてくれないで、返ってやす子のことをからかうので、しまいにはケンカになってしまうこともある。

だが、やす子は作文に、明を暴れんぼうの明、ふざけ好きの明として書く気にはなれなかった。暴れてもふざけても憎めない、明らしい特長を浮き彫りにしてみたかった。明は、学級のみんなからも人気がある。それはいったい、明のどのような面からくるものだろう。やす子は、あれこれと思いめぐらした。すると、次のような二つの思い出が、はっきりと頭に浮かんできた。



#### ドッジボールの思い出

やす子たちの学級では、みんな一緒になって、ドッジボールをして遊ぶことがある。そんな時、明はどんな球にも体ごとぶつかっていき、チームの中心となって大活躍をする。この点は確かに、明に人気が集まる理由の一つになる。だが、やす子は見た。明が球を取ったすぐそばで、相手チームの子が転んでしまったのだ。その子は、後ろ向きに逃げようとして転んだため、かめがひっくり返ったような格好になり、明にぶつけられるのを覚悟して手足をばたばたさせた。明は笑いながら、ちらっとそちらを見た。だが、手に持った球は、遠くで気を許している相手チームの子を目掛けて、思い切り投げつけられた。この時の光景が、やす子の頭には、強くはっきりと印象付けられていた。



#### 先生に注意された時の思い出

授業中、一人の子の発言に、先生も周りの子も、真剣に耳を傾けている時であった。となりの明が何か話しかけてきたので、やす子は相づちを打った。明は続けてまた話しかけてきたので、周りの真剣な雰囲気は気になりながらも、やす子も二言、三言、話をした。その時、先生が厳しい声で、「今、おしゃべりしたのは誰ですか。」と言った。明はすぐに手を挙げたが、やす子は身のすくむような思いで小さくなっていた。すると、また先生が、「明さん、誰としゃべっていたのですか。」とたずねた。明は立ち上がり、黙ってじっと先生の顔を見ていたが、はっきりと、「一人でしゃべりました。」と答えた。一瞬、緊張した空気が教室中を包んだ。先生は言葉に詰まったように、しばらく明の顔をずっと見ていたが、ついに、にこっと笑って「分かりました。座りなさい。」と言った。やす子は笑えない気持ちで明に感謝すると同時に、自分を深く反省したこの日のことを思い出した。

やす子には、この二つの思い出に、共通しているものがあるように思えた。明は、こわいもの知らずに暴れまわるような強さを、相手構わずに発揮しているのではない。弱い立場の人、困っている人に対しては自分の強さをもって、相手をかばおうとしている。やす子には、明の最も明らしい特長が、やっとはっきり分かってきた。やす子は急に、作文を書く意欲がわいてきた。やす子の心でとらえた明の長所を、学級の友達にも知らせたかった。そして、明自身にも、その長所に気づいてもらいたかったし、これからもずっと、明に明らしさを持ち続けてもらいたいと思った。